

# 2022 年 9 月定例会 総括質疑

2022 年 9 月 22 日

松谷 清

## 1. 第 4 次総と「葵歴史のまちづくり」グランドデザインについて

第 4 次総合計画策定が最終段階に入っています。第三次総合計画においては、「世界に輝く静岡」、「SDGs という世界目標」、「世界水準の自転車都市を含む車社会からの転換＝人が中心となる、歩いて楽しい街づくり」、「世界レベルの 2030 年 50%以上の温室効果ガスの削減目標」と『世界』という言葉が多用されてきました。第 3 次総の 8 年間で何が「世界」に輝いたのか、宮沢議員への答弁で「道半ば、4 次総でも掲げる」とのことです。

そうした中で、第 3 次総の中の 5 大事業の一つでもあった「歴史文化の拠点づくり」は 4 次総の中で 5 大重点政策「歴史文化の地域づくり」として位置づけられました。それを根拠づける 20 年スパンの「葵歴史の街づくりグランドデザイン」が策定されています。

### (1) 世界水準のまちづくり

- ①3 次総で目指すまちの姿である「世界に輝く静岡の実現」にはどのような意味が込められているのか、4 次総において、どんな意味で引き続き「世界に輝く静岡」を掲げていくのかを改めて伺います。

#### <都市局長 答弁>

- ・3 次総の策定にあたり、2 次総で掲げた「世界に輝く静岡の創造」を継承し、「世界に輝く静岡の実現」をまちづくりの目標とした。
- ・これは、世界水準の都市への飛躍に向けて、「この地に住む人々が誇りを持ち、訪れる人々が憧れを抱くまちを目指す」との考えから設定したものです。
- ・現在策定を進めている 4 次総においても、引き続き「世界に輝く静岡の実現」をまちづくりの目標に掲げていきたいと考えています。

- ②この葵歴史のまちづくりグランドデザインには「世界」というキーワードは見当たりません。世界水準のまちづくりを目指すうえでグランドデザインをどのように活用していくのか。

#### <都市局長 答弁>

- ・グランドデザインは、駿府城公園を中心とした静岡都心の更なる発展に向けて、商都静岡の特徴と歴史文化の特徴等を合わせ、中長期的な視点で 20 年後の目指すまちの姿を描いたものです。
- ・この内容を、4 次総の重点政策として検討している「歴史文化の地域づくり」の参考とするなど、本市の歴史資源を活かした、賑わいのある静岡都心のまちづくりに活用していく。
- ・その結果、まちの魅力の向上や交流人口の拡大に繋がり、「世界に輝く静岡の実現」に寄与するものと考えています。

③「世界に輝く静岡」は、第2次総から続いているとの答弁です。田辺市長は先端的「時代の潮流」にこだわりがあり第4次総では、9つの「時代の潮流」を挙げました。コロナ禍を経験している私たちにとってグローバリズムからローカリズムへ、成長主義から持続可能な社会へ、集権から分権・分散型社会・市民自治へと世界の潮流となりつつあるムニシパリズム、グローバル資本主義を地域から変革する新しい民主主義を加えることを提言しておきたいと考えます。

「グランドデザイン」の「世界水準のまちづくり」の活用についての答弁は1昨日の企画局長の「世界史上例を見ない260年の平和を築いた徳川家康」が世界水準・オンリーワン答弁がわかりやすいです。

徳川家康に係る歴史資源の世界性とは何かがもっと語られる必要があります。私自身は大御所時代の朝鮮通信使に現れた秀吉の侵略戦争後の平和外交、国内における武器製造を棚上げした民需産業、平和という意味における世界水準としての徳川家康像であります。日本の植民地支配から77年を経て朝鮮通信使は静岡市と釜山の自治体交流という形で再現・継続されている意味がそこにあります。

1、「世界に輝く静岡」の実現に向けて、徳川家康公の世界に誇れる功績をどのようなものだと認識しており、歴史博物館ではどのように市民に発信していくのか。

#### <都市局長>

・家康公は戦乱の世を終わらせ260年に渡る天下泰平の礎を築いた。このことは世界史上で特筆すべき事象とされており、家康公の一生が分かる全国初の博物館として家康公の功績を市民に発信していく。

#### (2)グランドデザインにおける交通政策

①このグランドデザインは、JR静岡駅周辺エリア、駿府城公園周辺エリア、青葉通り周辺エリア、浅間神社・臨濟寺周辺エリアと4つのエリアから成立します。これを交通政策としてみる時、徒歩、自転車、バス・タクシー、車、鉄道という移動分野においては車中心の社会からの転換をベースに都心における「歩いて楽しいまちづくり」として、ひいては世界の趨勢としての脱炭素型社会の実現となります。

具体的には、グランドデザインに書込まれた江川町の交差点のスクランブル化や駅前国道一号線での横断歩道の設置を含んだ静岡都心の玄関口としての風格あるまちづくりの基本計画・政策につながります。そこで、江川町交差点の平面横断化に向けた現在の取り組み状況はどんな現状にあるかを伺います。

#### <都市局長>

・「静岡都心地区交通適正化事業」として実施している。  
・平成24年度に、江川町交差点のスクランブル化に向けた社会実験などを行い、27年度には、「御幸通りのJR静岡駅側」に横断歩道を設置し、供用を開始している。  
・現在、「北街道の呉服町スクランブル交差点側」に、新たな横断歩道の設置に向けて、交通管理者と交差点の構造などについて調整を進めている。

- ②江川町交差点のスクランブル化については2012年11月17日～25日まで社会実験が行われました。10年たっても実現できていないということはどう理解すればいいのでしょうか。路面電車、LRT計画と並んで大きな疑問です。
- 江川町の交差点のスクランブル化に向けた、日生ビルと電電ビルの横断歩道の設計委託業務は発注されているということでもあります。その課題と完成時期はいつになるのか。

#### <都市局長>

- ・課題は、自動車交通量を抑制すること。
- ・現在、交差点を通過する車両の交通量は減少傾向にあるが、更なる自動車交通量の抑制を図りたい。
- ・また、周辺道路の交差点信号との連携についても対策が必要である。
- ・まずは、新たな横断歩道の設置を進めるとともに、交通量を抑制する対策を継続し、交通管理者や交通事業者などとの協議、調整が整った後、スクランブル化が実現できる。

- ③徳川家康の歴史資源が「世界性をもつオンリーワン」とするなら「葵歴史の街づくりグランドデザイン」は「世界に輝く静岡」第4次総の中にもっと積極的にとりいれる必要があります。

そこに向かう交通政策、静岡の表玄関という意味において、お手元資料、姫路市の駅から姫路城に向かう一般車両の流入を禁止しての歩いて楽しい街づくり、パリ・シャンゼリゼ通り目指す大手町通りは大いに参考になります。10年たっても実現できなかった江川町の交差点のスクランブル化は「もうすぐだ」と受け止められる答弁です。姫路市は10年をかけて大手町通りを完成させました。静岡駅前から駿府城公園に向かう道路、駅前国一号に横断歩道の設置、江川町交差点のスクランブル化、一般車両の流入を禁止しての歩いて楽しいまちづくりは、まさに世界に輝く静岡市の表玄関になります。お手元資料、御幸町商店街からは横断歩道設置の具体的図面が提案されています。こうした「ウオーカルなまちづくり」は第4次総合計画に組み入れていく必要があります。

JR静岡駅北口周辺の交通環境改善について、どのように考えているのか。

#### <都市局長 答弁>

- ・将来を見据えた交通環境の改善が必要であると認識しているため、令和4年度より、「静岡都心地区まちなか再生事業」において検討を行っている。
- ・国道1号の横断方法や御幸通りの再編など、歩行者優先のJR静岡駅北口周辺の交通環境改善について、ヒアリングや意見交換を行っている。
- ・JR静岡駅周辺エリアのまちづくりの方針や実現化方策について、市民の意見を聞きながら検討を進めるとともに、4次総に位置付け、交通結節点の機能強化も含めた、歩行者優先の交通環境の改善を図っていく。